

NEWS LETTER ⑧ (日本語訳)

「地球地図フォーラム」を開催

1997年11月12日から14まで日本の岐阜市にある岐阜県図書館で「地球地図フォーラム'97in岐阜」が開催され、27ヶ国、5国際機関から508名の参加があった。

地球地図フォーラムは、昨年11月に米国サンタバーバラで行われた国連地球地図セミナー (Interregional Seminar on Global Mapping for the Implementation of Multinational Environmental Agreements)の声明の中で地球規模の空間データ基盤 (GSDI : Global Spatial Data Infrastructure)の構築を促進するため、データ利用者と提供者が集まり、意見や情報を交換するためフォーラムを創設すべきという勧告に基づき開催されたものである。今年2月にタイのバンコクで行われた第14回国連アジア太平洋地域地図会議や今年6月にニューヨークで開催された第6回南北アメリカ地域地図会議などでも同様の勧告が決議されていた。

フォーラムでは、12日、13日の二日間にわたり、基調講演、特別セッションのほか、6つのセッションにおいて、各国地図作成機関の代表や地域開発、環境問題の専門家などから全部で28の講演や報告が行われた。

基調講演では、国連地域開発センター (UNCRD)の梶秀樹所長が、「地域開発計画の

ための地理情報」と題してUNCRDの活動事例を挙げ、地域開発における地図あるいは地理情報の重要性を示した。また、地球地図国際運営委員会 (ISCGM)の委員長である米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校のエステス教授は、「地球地図：好機と挑戦」と題して、地球規模の問題への関心が高まりつつある今こそ、あらゆる関係者を組織して、継ぎ目のない枠組みのもとにデータを統合し、持続可能な発展に良好な環境を作るべきであると主張した。

このほか、各セッションでは、地球地図のユーザーとなる環境問題や地域開発の専門家から、地球地図に対する要求や期待が述べられ、作成者サイドである地図作成機関の代表からは、各国における空間データ基盤 (SDI : Spatial Data Infrastructure)の整備状況や取り組みについて報告があった。

国土地理院院長の野々村邦夫が座長を務めた特別セッションでは、「意思決定のための地理情報」というテーマで、中央環境審議会会長 近藤次郎氏、岐阜県副知事 森元恒雄氏、建設省技監 橋本鋼太郎氏と国連経済社会局経済社会開発天然資源管理部部長 ベアトリス ラボンヌ氏の講演が行われた。

なお、14日は技術巡検が行われた。

編集、発行：建設省国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

TEL: +81-298-64-6910

FAX: +81-298-64-1804

e-mail: iscgmsecc@graph.gsi-mc.go.jp

発行年月日 1997年12月25日

第3回地球地図国際運営委員会

第3回地球地図国際運営委員会が岐阜県図書館特別会議室で1997年11月15日に行われた。

米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校のJohn Estes教授が委員長に再選され、マレーシア測量局のDato' Majidが副委員長、国土地理院の永井信夫、村上広史の両氏がそれぞれ事務局長、事務局次長に指名された。イラン国立地図セン

ターのAbbas Rajabifard氏が新委員に承認された。ニジェール国立地理院のMahaman Laminou氏が、Waziri Maman氏の後継者として承認された。

本委員会では、地球地図の仕様と地球地図整備のための行動計画が討議された。また、地球地図関連の活動が関係の委員により紹介された。討議のあと、次に示す決議が採択された。

第3回地球地図国際運営委員会決議 (仮訳)

地球地図構想は、地球地図国際運営委員会(以後「委員会」と称する)と関連機関の努力により、国連環境開発特別総会の報告書(A/S.19/1, 1997年6月)のなかに反映されているように、世界的にますます広く受け入れられるようになった。さらに委員会は、西暦2000年までの地球地図の整備を確実にするために直ちに行動すべきであると考えた。全地球で統一された仕様をもつこの数値主題地図は、環境に関する多国間宣言の実施や持続可能な開発の問題への取り組みに不可欠である。第3回会合では、地球地図の整備を促進するための具体的な方法について討議した。委員会では、特に、地球地図の仕様と地球地図作成のための行動計画に討議の焦点をあてた。会議参加者の討議に基づき、委員会は次の通り決議する。

1. 第1回及び第2回会合の決議と行動計画に基づき、委員会及び国家地図作成機関、関連機関は、西暦2000年までの地球地図整備の目標に向けて取り組みを継続する。
2. 委員会は、本会議で明確化された技術仕様案を採択するとともに、適切な地理データ標準を使用することにより、地球地図が多方面で利用されるよう、国際標準化機構第211技術委員会(ISO/TC211)の取り組みと整合させつつこの仕様を発展させていくことをワー

キンググループに命ずる。

3. 委員会は、事務局により作成され、ワーキンググループ1により紹介された行動計画案を採択する。ワーキンググループは、会議での討議に従い、地球地図整備にすべての国々の参加が可能となるよう制度的、技術的、科学的進歩を取り入れて、引き続き行動計画を改善する。
4. 委員会は、30秒メッシュ全地球標高データ(GTOPO30)、VMAP LEVEL 0、全地球土地被覆データ等、既存の地球規模地理データの評価に参加できるようにすべての国の能力を高め、これらのデータの質を改善するための手助けを行うとともに、これらのデータが地球地図の作成にも活用できることを強調する。
5. 委員会は、南極大陸における地球地図データ整備を確実なものとするために南極科学委員会測地・地理情報作業部会(SCAR-GGI)と連携する。
6. 委員会は、地球地図の整備、入手、利用、質の向上に役立つよう、国家、地域及び全地球の空間データ基盤(SDIs)について、より良い空間データの整備促進に関心のある機関と積極的に共同作業を行う。さらに、委員会はISO/TC211とのリエゾンの地位を確立する。

7. 委員会は、次回の会合を米国地質調査所 EROS データセンターの主催により米国 South Dakota 州 Sioux Falls において、1998年6月15から19日の週に開催する。
8. 委員会は、日本国岐阜市において、地球地図フォーラム'97in 岐阜および第3回地球地

図国際運営委員会会議を企画、主催、運営し、たいへんな成功を収めた国土地理院、国連地域開発センター、科学技術庁、国連経済社会局、(財)日本地図センター、岐阜県、岐阜県図書館及び地球地図国際運営委員会事務局に対して心から感謝する。

CD-ROM

岐阜での地球地図フォーラム開催に合わせて、国土地理院と建設省が技術仕様事務局案にできるだけ沿った形で地球地図CD-ROMを2枚作成した。

CD-ROMのうち、片方は国土地理院の国土数値情報をもとに作成したもので、日本全体をカバーしている。もう一方は、インドシナのメコン川流域を対象として、人工衛星画像とDigital Chart of the Worldから作成した。

このCD-ROMは、岐阜のフォーラムで希望者に無償で配られた。できるだけ多くのユーザーに見ていただき地球地図技術仕様の今後の検討に資することが目的である。また、近日中に同

じデータをWeb上でも公開する予定である。

CD-ROMのデータ内容は

- ・標高
- ・土地利用
- ・植生
- ・河川・湖沼
- ・交通網
- ・行政界

とこれらを表示するビューソフトウェア

(Windows 95対応)である。

ご意見を、地球地図国際運営委員会事務局宛 (iscgmsec@graph.gsi-mc.go.jp) にe-mailでお寄せ下さい。

ネットワーク・フォーラムのページをオープン

地球地図国際運営委員会事務局のホームページをオープンして1年半が過ぎた。

これまでに、Newsletterページ、サンタバーバラセミナーや岐阜フォーラムの情報や報告などを加えて、Webサイトを改善してきた。今年の10月にUSGSが運営するGTOPO30のミラーサイトもスタートした。

今回、新たに地球地図や地球地図国際運営委員会、全地球空間データ基盤について、体制や技術等の点から情報交換や討議を行うために、ネットワーク・フォーラムのページをオープンした。地球地図ホームページの読者は、このページ上で地球地図に関する意見を述べることができる。

地球地図についての提案、意見、要望や助言など何でも歓迎します。ネットワーク・フォーラムでの討論により、地球地図の目的が強化され、地球地図の利用が拡大されることを望みます。アドレスは次のとおりである。

URL:<http://www1/gsi-mc.go.jp/iscgm-se/c/nwf-home.html>

皆様の熱心な御支援(投稿)によりネットワーク・フォーラムが活発なサイトになることを希望したい。

なお、今後、ユーザー・インターフェースをより易しくし、関連機能等を加えて、地球地図のホームページを改善していきたい。

アジア太平洋地域GIS基盤に関する常置委員会(PCGIAP)第4回会合

第4回PCGIAPがイランのテヘランで1998年2月28日から3月4日までイラン国際会議場(ICIC)で行われる。本理事会の議事次第はおおむね次の通り決められた。

第1日には、参加者の登録と国立地図センターの視察が行われる。

第2日には、理事会及びPCGIAP会長の歓迎挨拶、イラン国大統領代理の開会挨拶、組織委員長による基調講演を含む開会式、本会議が予定されている。本会議では、国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCC AP)、同アメリカ地域地図会議 (UNRCC Americas)、欧州地理情報連合 (EUROGI)、地球地図国際運営委員会 (ISCGM)、全地球空間データ基盤 (GSDI) 会議等の関連機関の会長、事務局長による報告が行われる。また常置委員会の今後の活動についてPCGIAPの事務局長により報告が行われる。第2日の最後にはプログラム、枠組み、他の取り組み (例、EUROGI、地球地図、GSDI) との関連とアジア太平洋地域地図会議の役割について討議が行われる。

第3日は、本会議及びワーキンググループ会合が予定されている。

第4日には、ワーキンググループの会合の続きと、イランの各機関の視察が予定されている。

最終日には、ワーキンググループの報告、PCGIAPの今後の取り組み、次回の会合のための取り決めと決議、会長による閉会演説、閉会式が行われる。

また、PCGIAPは欧州地理情報連合の公式なリエゾン機関であるので、このリエゾンにより、両サイドのメンバーがお互いの会合に参加可能であり、双方の取り組みの調和に向かって貢献することができ、全地球空間データ基盤(GSDI)の実現を可能にするといえる。

詳細については、イラン大会組織委員会: ncc2@dc.i.iran.com まで連絡を下さい。

テヘランでお目にかかれることを楽しみにしています。

Abbas Rajabifard
NCC, Tehran, Iran

-Mr. Abbas Rajabifard 寄稿-

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合予定である。"? "マークの会合は未確定である。

1998年

- 2月28日～3月4日、イラン、テヘラン
第4回PCGIAP会議
- 3月5日～6日、カナダ、ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア
第6回ISO/TC211本会議
<http://www.statkart.no/isotc211/>
- 3月25日～27日、メキシコ、アグアスカリエンテス
国連地域地図会議の調整のためのワーキンググループ
- 6月8日～11日、カナダ、オタワ
第10回International Geomatics Conference on Spatial Data Infrastructures (SDI'98)
<http://www.ccrs.nrcan.gc.ca/sdi98/>

- 6月15日～19日の週、米国サウスダコタ州スーフォールズ
地球地図フォーラム及び第4回ISCGM
- 9月24日～25日、中国、北京
第7回ISO/TC211本会議
- 下半期、オーストラリア
PCGIAP主催第3回GSDI
ISCGM?

1999年

- 夏、英国ケンブリッジ
第4回GSDI及びISCGM?
- 9月/10月、米国 ワシントンDC
ナショナルジオグラフィック協会主催
Mapping in the New Millennium?